

氏名	葉柴 隆斗	学年/職名	修士課程 1 年
発表タイトル	観測ロケット搭載用イオンドリフト速度測定器の開発		
発表要旨	<p>高度約80 km以上の超高層大気領域では、大気粒子の一部が太陽光によって電離大気（プラズマ）となるため、中性大気とプラズマが共存している。</p> <p>地球電離圏に特有の現象である電離圏ダイナモや電離圏プラズマ密度擾乱の解明にとって、中性大気とプラズマの相互作用の理解は重要であるが、実状として電離圏においてイオンドリフト速度を高精度に直接観測できる小型の測定器は存在していない。</p> <p>以上より、本研究では、電離圏プラズマ観測のための観測ロケット搭載用イオン密度・イオンドリフト速度測定器の開発を行う。測定器を開発することで直接観測の手段を取得し、電離圏の特徴的な現象の解明を目指す。</p> <p>本発表では、現在までの測定器の開発状況、そして今後の宇宙環境試験の予定や測定器完成に向けた取り組みについて述べる。</p>		
キーワード ・ キーポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観測ロケット ・ 測定器開発 ・ 地球電離圏 		